

一人一人が生き生きと活動する  
明るく楽しい学校



# かいどい



学校だより令和3年度 第12号

令和4年2月28日

<http://schit.net/tama/eskaidori>

多摩市立貝取小学校  
校長 小川 貴史

## 卒業式、修了式を迎えて

校長 小川 貴史

まもなく修了、卒業の月を迎え、コロナ禍の状況ではありましたが、この一年間の活動を通して、心身共にたくましさ溢れる姿が多く見られますことは、保護者・地域の皆様との共育の成果でもあります。心より感謝申し上げます。

多くの芽吹きをもたらす春を迎える度に、「植物は、蓄積温度が満ちて発芽する」という言葉が浮かびます。この時期の気候は、三寒四温を繰り返して、動物にも植物にも春をもたらします。自然界の生き物たちは、揺れ動く気温の変化にその都度反応するのではなく、個体の持つ「発育限界温度」を越す温度を「有効温度」として積算すると言われています。そして、発育限界温度が生き物によって違うため、春の感じ方や成長の速度が異なるのです。

一方、鳥のように昼の長さで季節を知る生き物は、地球の動きによって自らの行動を決めると言われています。いずれにしても、自然界の多くの生き物は自分を取り巻く環境から自らの育ちの時期を知り、状況に合わせた生き方や育ち方を心得ています。それに対し、私たち人間は、母親の胎内で見守られる間、比較されることは、さほど多くありません。しかし、生まれた途端に成長の「速さ」が周りと比較されがちです。成長の早さが学童期においても重視され、その後の成長に伴い、その視点が、「質」へと移っていきます。

そこにあって、人間としての成長は、いかに人や社会のために役立つ力を獲得し、生かすことができるかが大切です。人間の成長にかかわる環境は、他の生き物の気温や時間の変化に代わる存在として見逃すことができません。

卒業、修了を迎え、環境を私たち人間の意欲や経験、能力と関係づけて見る必要があります。そこで自分を取り巻く様々な環境を自らの学びによって、実生活に生かすことが必要です。苦労や問題などの刺激が少ない環境は、蓄積温度に寄与しない存在です。それに対して成長を促す有効温度となる環境は、様々な課題解決に関わり多くの悩みや不安を抱えつつ、成長や発達のよい刺激になると言えます。その意味で、これまでの体験とともに、これから出会う苦労や困難という環境こそ、子供たちの真の成長を促すと信じます。

### 特別支援教室 拠点校の変更について

貝取小学校は、これまで特別支援教室の巡回校として、瓜生小学校の先生が指導を行っておりました。令和4年度からは、中学校区を中心にグループ分けされることにより、拠点校が「豊ヶ丘小学校」に変更となります。

拠点校は変更になりますが、引き継ぎをしっかりと行い、児童への指導・支援はこれまでと変わらず、保護者の皆様と連携して進めてまいります。

